

金独
のり
閨寝

ひとりね さひのねま

Fate/GrandOrder FANBOOK 06

OZYMANDIAS × GILGAMESH

R18

presented by 酒蔵

注意



- そろそろみんな還る雰囲気の日々～退去する日までの話。
座への思いや扱いについて色々と独自解釈が含まれます。
2部序章と2部の間に発行していますので、今後矛盾が生じる可能性があります。
- クリスマスから退去の時系列どうなってるんでしょうね…。
そのあたりは深く考えないでください。
- 好き勝手にギルガメッシュの未来視描写をしています。
- 当作品はオジマンディアス×ギルガメッシュ(弓)の話です。
しかしギルガメッシュ(弓)×ギルガメッシュ(術)の直接的ないちゃいちゃ描写、
オジマンディアス×ギルガメッシュ(術)の肉体関係を示唆する会話が含まれます。
駄目そうな方は自分のカルデアとは違うという気持ちを強く持ってから読んでください。
- オジマンディアスがダ・ヴィンチちゃんに振られます。



うちの同人誌におけるオジギルの設定





おい
黄金の



ん?
黄金の?



……
盛りのついた
犬か貴様は

気付いたか
一瞬放心して
おったろう



レイシフトも
既に叶わず

外に出た所で
査問の準備とやらで
忙しいばかり



なれば時を有意義に
過ごす為に我と寝ると？



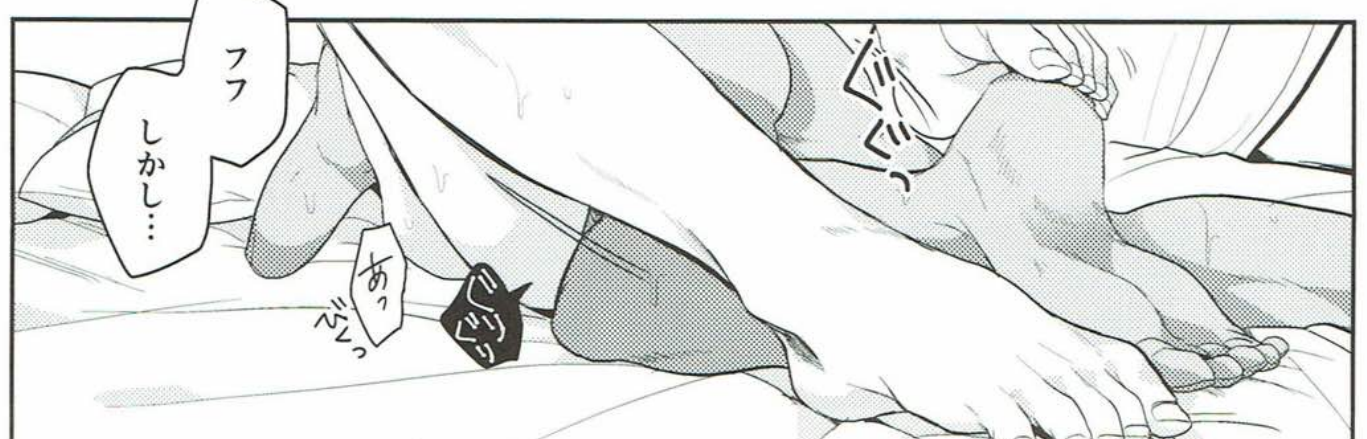
己が求められるが
訝しいのか？

そんな訳が
あるか
だが良い塩梅
というものも
あろう



良い発想で
あろう

たわけめ
我を暇潰しと
形容するか
許さんぞ



フフ
しかし…



……



こうして
ふれ合う時も
あと僅かなのだ
なれば心ゆくまで
重なるも良からう



はっ
はあ
ゆさっ

ゆさっ
ぬち
ぬち



そなたも
余が欲しいと
みえるぞ

んっ
んっ……



今日は
もうよい

黄……
ギルガメッシュ



どうした



んっ



何だ？今の話で
機嫌を損ねたのなら
いやに感傷的ではないか

左様な話題を
持ち出して

感傷的なのは
貴様だ

トホホホ...



思い出作りが
したいとでも？

ん？

うーむ...



すでに幽世の身なれば
現世に未練は無いと
言いたいところだが...

※【エジプトの死後の世界】
…資格ある者は永遠の楽園に
復活し生前と同様に生活する



やはり生身の
快樂とは惜しいものよ

余としてそれを
抑える気はない

永遠の国も
もはや関わりなき
ものであるしな

ふむ…
そうだな

ただ貪欲に
悦を求むるが
人の性質であった

かといつて
我がこの身で
付き合つてやる
道理もないわ

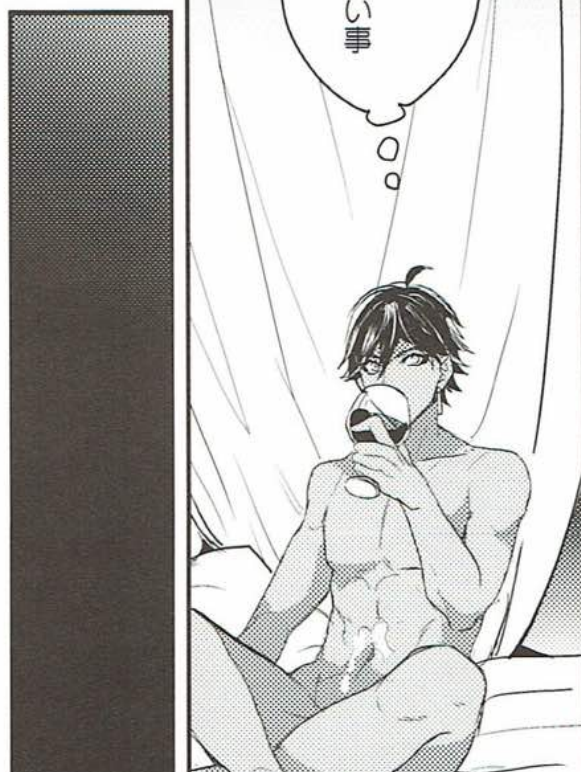
悦楽こそは
そなたとて
欲する所であろう

当然

我がその気の
時ならばな

ウ
イ
ン
ッ

珍しく
ノリの悪い事



翌日の夜

そういえば今日お
黄金のを見ておらんか

おや...っ

更に翌日

おじいちゃん
おばあちゃん
余ん
おん

その翌日

黙...

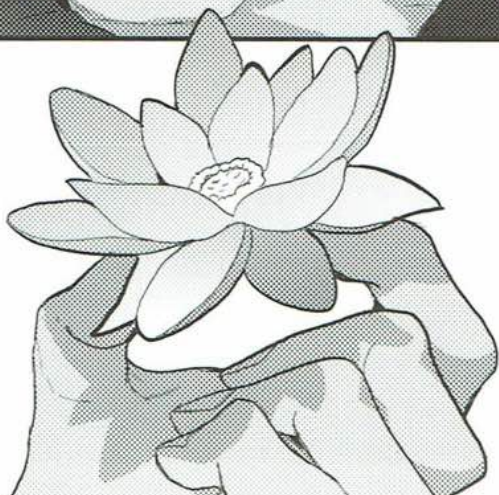
ふう...

数日後

仮初の物とはいえ

脳と肉体があれば
思考は巡る

余暇があるなら
尚の事だ



しかし今の余に
心沈ませる
ものがあるつか

愛はどつだ

英霊となった今は
この世の終わる時まで
我が精神と共に有り続ける

全てが朽ちようと
この想い消えは
しないと知り

安堵すゝめる

務めはどつだ

余は国を永遠とは
できなかつたが

それは余の肉体が
滅びの定めを持つ限り
必然であった



永久とわの存在と
なつたはずが
求めた物には程遠い



だがこの
肉体はどうだ



今この場にて
悔くいる事はない



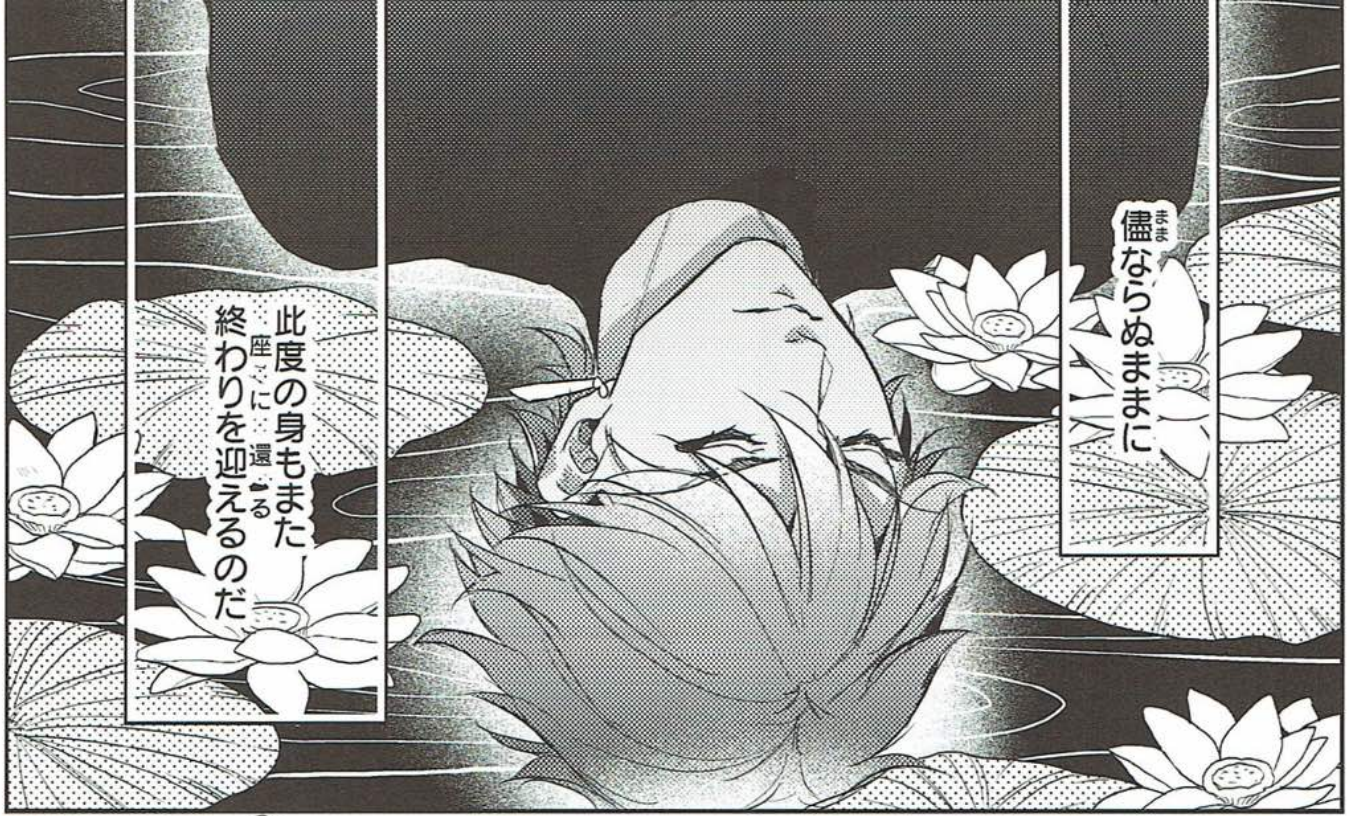
食いが要いらずとも
腹はらは減へり

眠いりは要いらずとも
臉おもては落おちる

生命いのちの円環えんかんから
外なれても尚なお

この身の内には
熱あつりが宿やどる

肉体とは
ままならぬもの



備なりぬままに

此度の身もまた
座に還る
終わりを迎えるのだ



だが

余が今

これ程に熱を
意識するのは

貴様のせいだぞ
ギルガメッシュ



何処を
ほつきき歩いて
おるのだあやうは



貴様…

まずい…
物足りん…

おきゅっ



にも関わらず

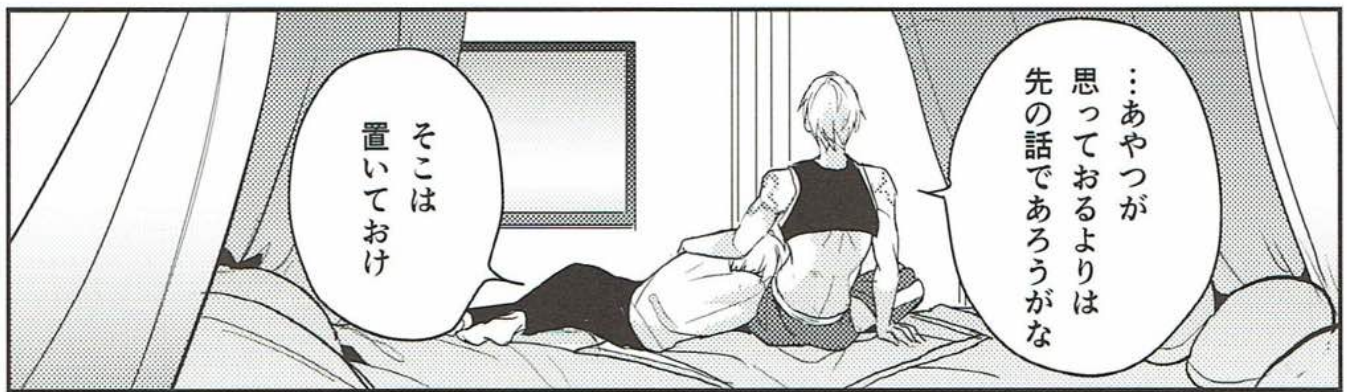
貴様の肉体は
形良く欲を煽り
技は天にも
昇る巧みさよ



そうそこが
まずいのだ

これより優れた
肉体があると
思っておるのか!!

この所散々
我と寝とる癖に
どういいう了見だ!!
おのれえ





実際
下らん話
ではある

なれどあれは
あの精神あの肉体に
あそこまで我好みの
魔力が宿っておる
稀有な存在故な

私も愛らしい
反応の二つでも
見せてやっても
よいというものよ



異論は無いが
その時は癪が
勝ったのだ

更に今は何故あちら
から追って来んのだ
という意地が強い

我は乙女の恋の
相談でも受けて
おるのか？



色の絡む
関係だぞ

常滞りなく
済んでも
詰まらん

くさっ

我とも
仲違いして
みるか

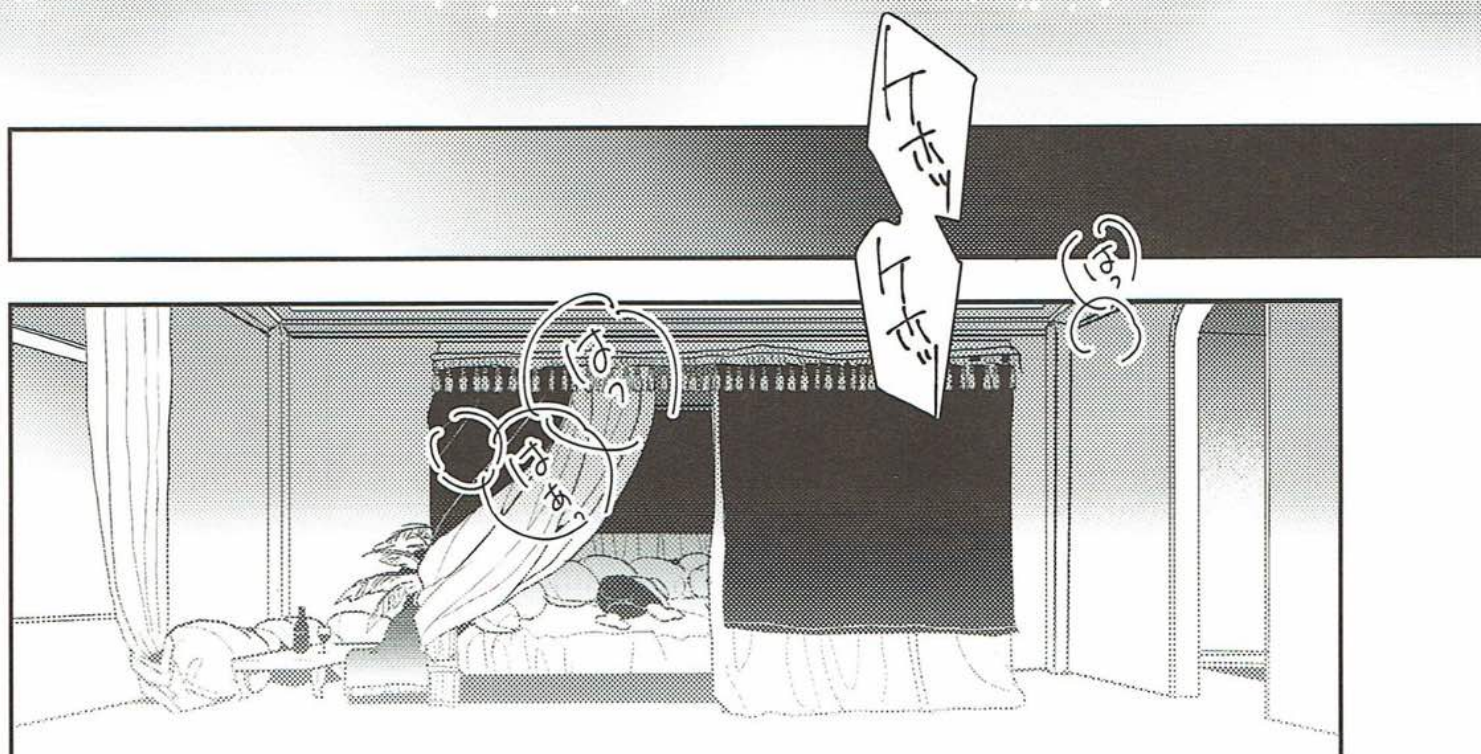
ふははは
それこそ
下らんわ!!



此の世の
財宝は全て
我の物

となれば
あれを蔵に入れて
いつでも使えれば
よいのだが…

オモチャあつか
性具扱いだな





ぐ、おのれ
魔術師め……



はあ…はっ

はっ
シユメル熱、なぞ
問題ではないが…



「雑種を冥界に
送ってやるのか」
「それしか
あるまい」

「電力からの魔力供給も
ほぼ途絶えておるが
余力はあるのか？」

「ふむ…若いの
未だ病魔如きに
屈してはおるまいな」



「おのれえ…っ
大半持って
いきよった…っ」



「んんっ」



「それは
当然だが」



太陽のが、欲しい



からだ
が熱い

魔力が足りず
抵抗できん

渴く

渴く

渴く
渴く
渴く
渴く

欲しい



ズル
ズル



これとて
違うのだ



何故我が
この様な…っ
おのれ
オジマンディアス



ただ達したい
訳ではない…っ



もっと高めの

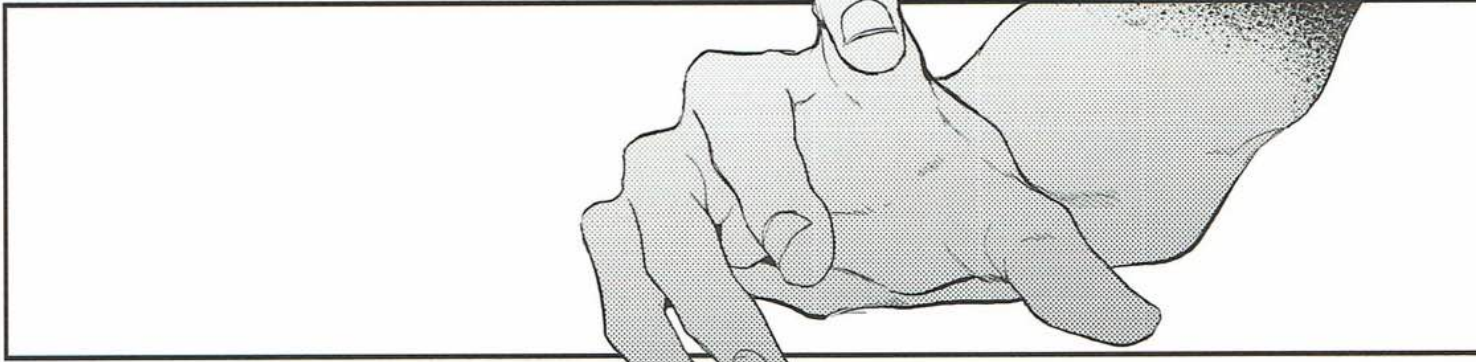


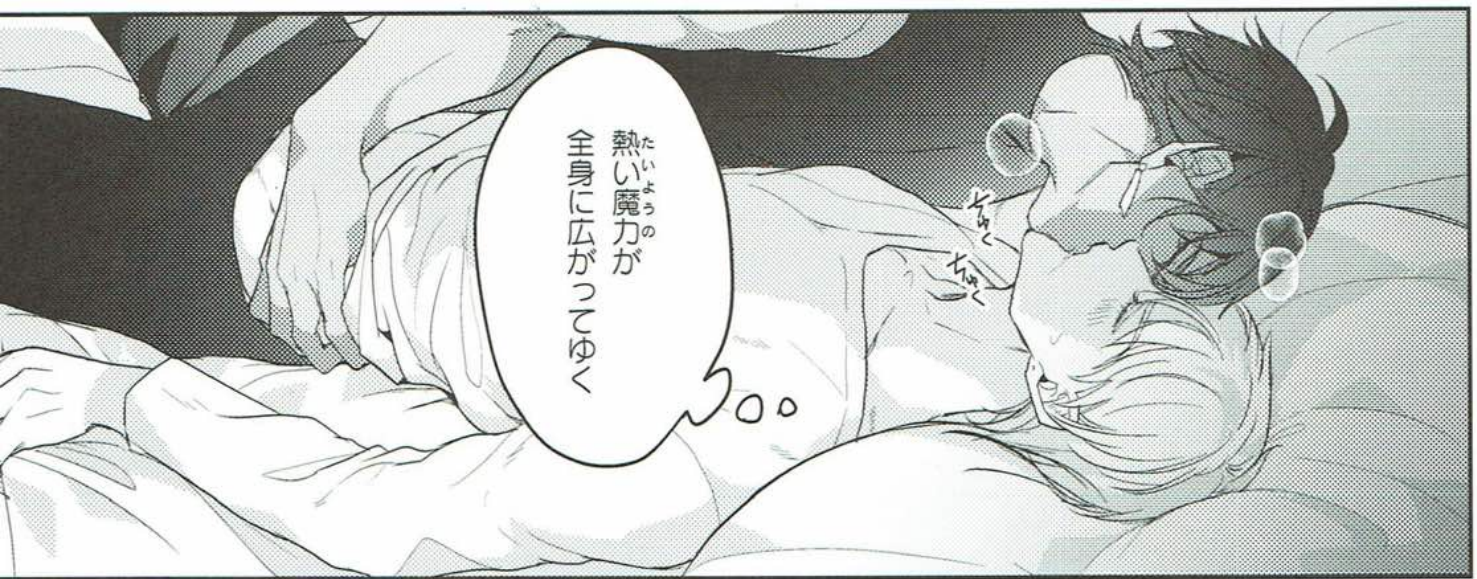
圧倒的な
充足感を

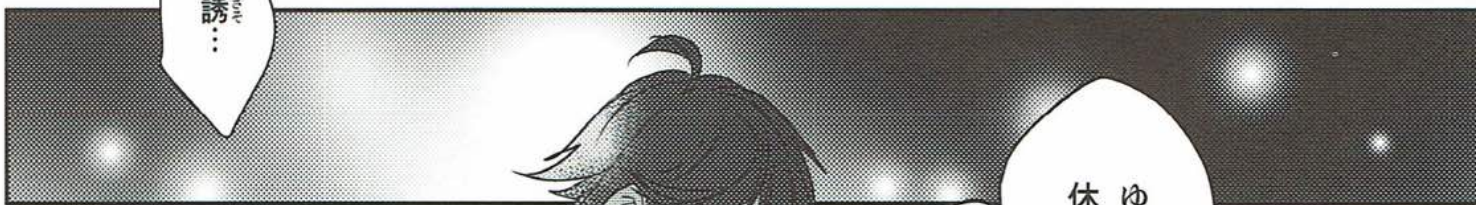




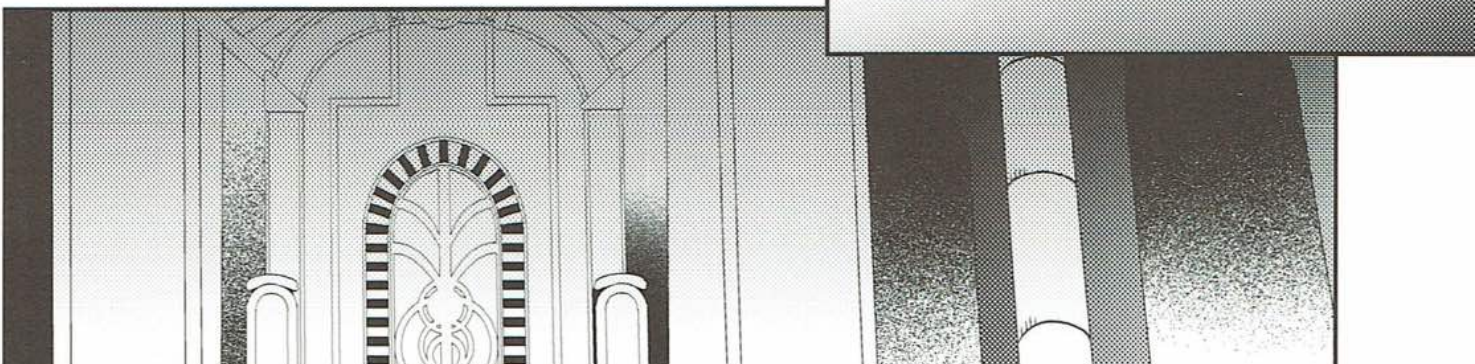
当然
満たされは
せんわな











今日明日には
退去をせよと申すか

熱病も治まった
ばかりだというのに
忙しい事よ

カルデアの火も消え
私達を維持する電力の
供給も直に止まる

アーチャーの単独行動
でもなければ自然と
還ることになるね

遂にこの時が
来たのですね…

寂しそうだな
ニトクリスよ

そっ…

そんなことはございません
という事もないというかやはり
同盟相手な訳ですから何かしらの
感慨はつまりええと…!!

フッフ



悪いね

彼にも色々
やってもらう
事があるんだ



本来ならばあれから
謁見を求め感謝を表し
宴の一つでも催す所だが…



気に掛かるなら
声でも掛けて
やれば良い

私から…
ですか



オジマン
ディアス様は…

余か



そうですね

では同盟者には
このニトクリスの
慈悲を見せる事に
いたしましょう



この様に
軟禁されて
おるようだ

玉顔を見せれば
感涙で迎える
事であろう

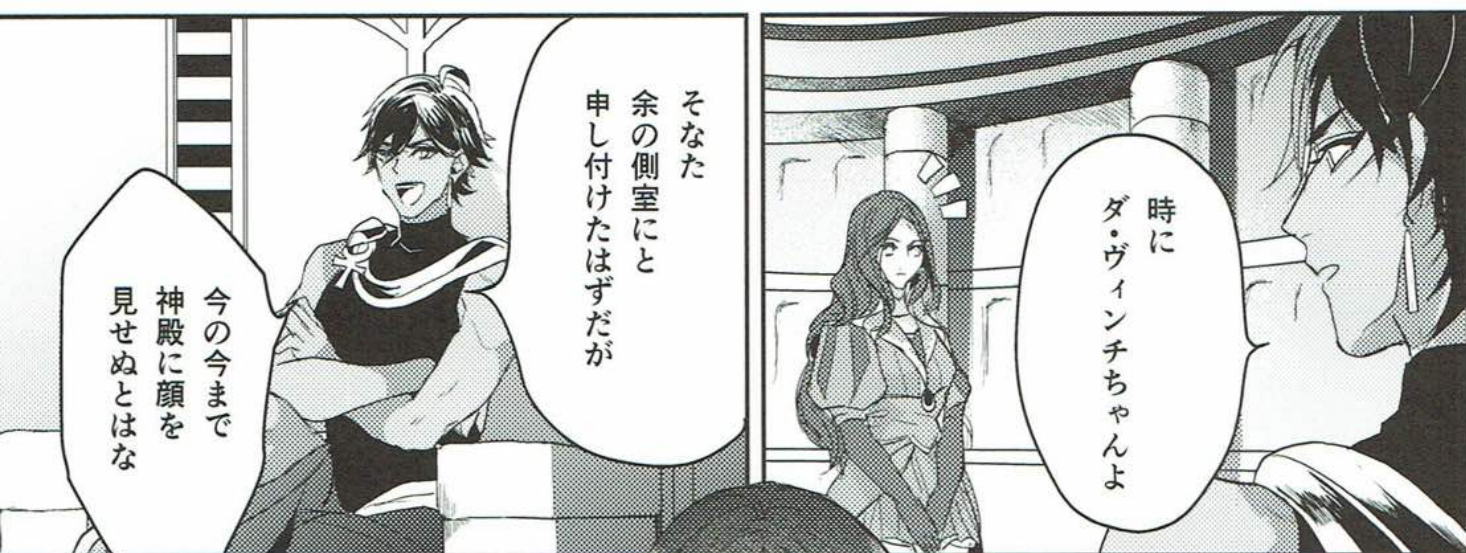
ははは
軟禁とは
失礼な



余は

暫し此処ここに居る

誰も邪魔をせぬよう
鍵かぎをかけて行け



時に
ダ・ヴィンチちゃんよ

そなた
余の側室にと
申し付けたはずだが

今の今まで
神殿に顔を
見せぬとはな



おやあれは
まだ有効だったか

ファラオ直々の
お誘いは光栄とはいえ
私は万能のダ・ヴィンチちゃん

君だけ
じゃない

世界が私を
求めてる!!



その仕事
この後の為の
ものか

当然



その有能が故に
召し抱えようと
言うておるのにな
……



だから謹んで
お断りさせてもらおうよ
仕事も
山積みなんだ



決して
失いはしないさ



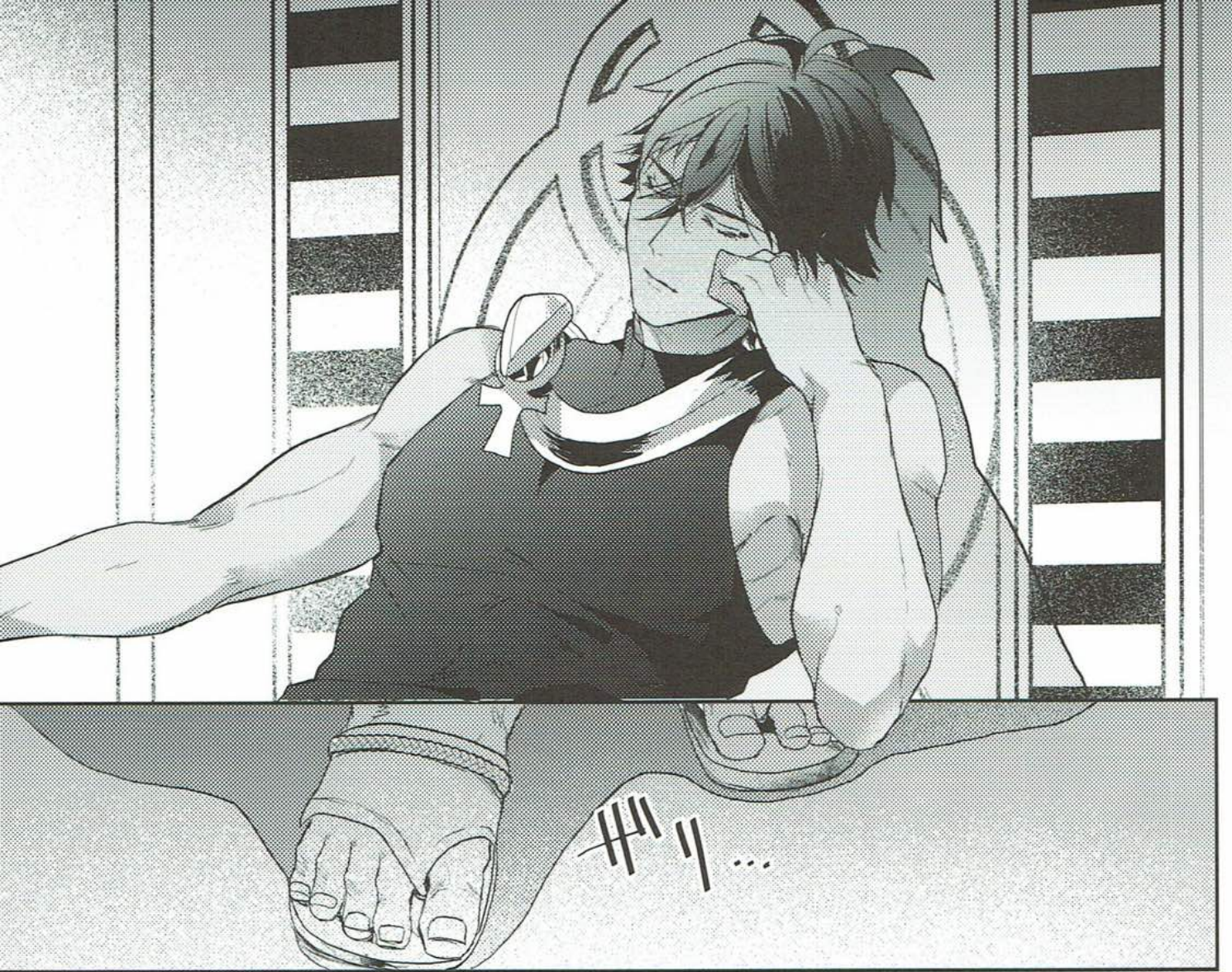
余らの
靈基……



余を拒む不敬
許そう

よい
能ある者の職分を
庇護するも王の務め









さすが
流石の我もその
切り替えには
戸惑いそうだ

いや此処で
乗られたら

貴様を王ではなく
道化として愛でる事
になる所であった



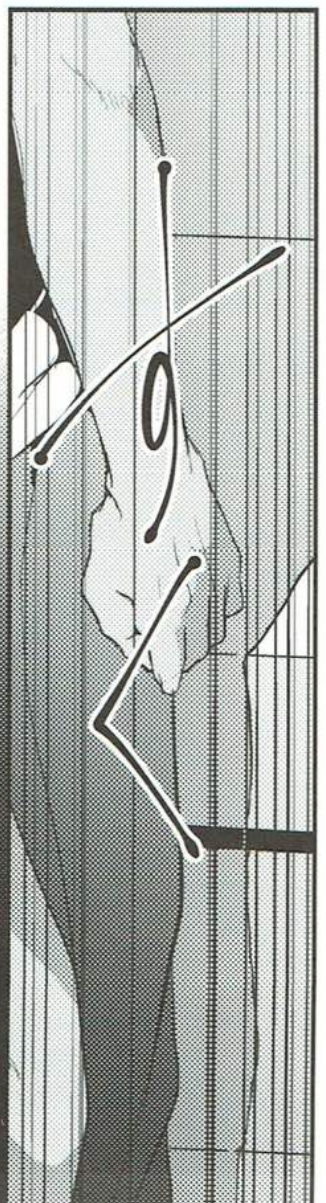
ふふふ
?

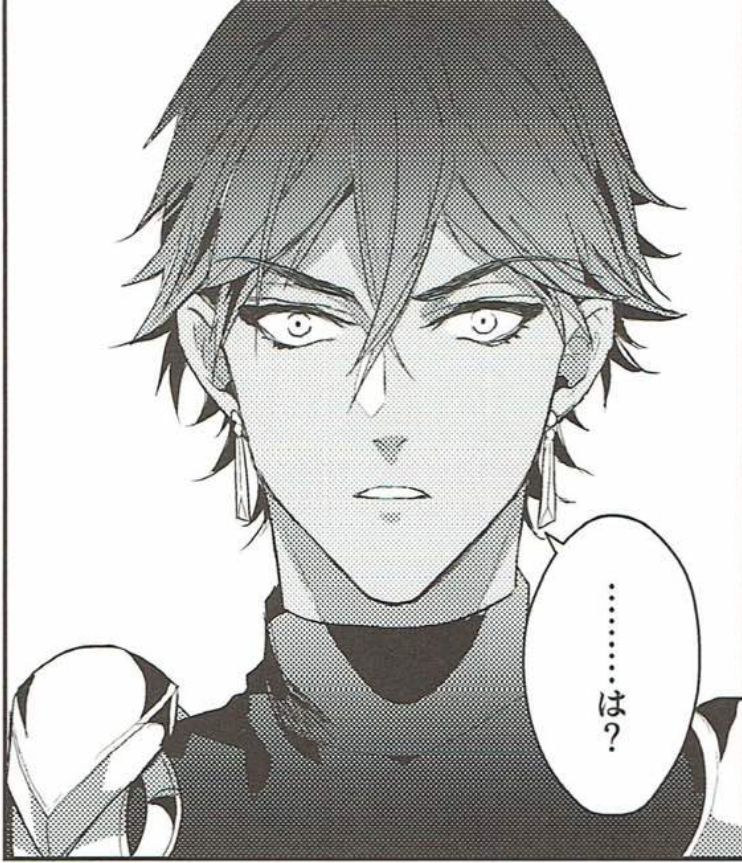


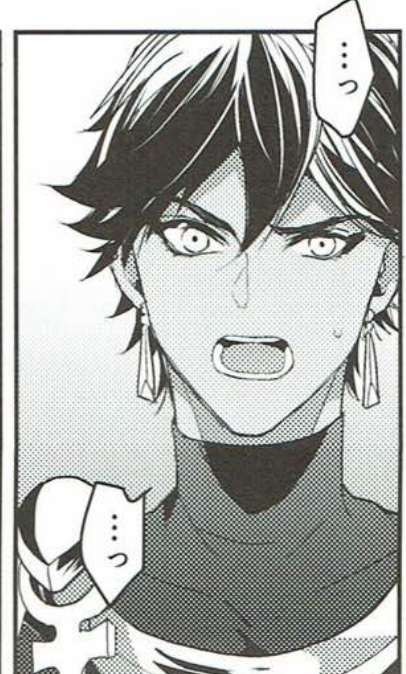
貴様…
口にして良い
冗談を計れぬ程
愚者でもあるまい



…太陽の









感動で
動けんか？

寝所^{しんじよ}まで
運んでやろうか

抱き上げる方が
どちらか決める為に
宝具戦が要りようだぞ



反応して
おるな

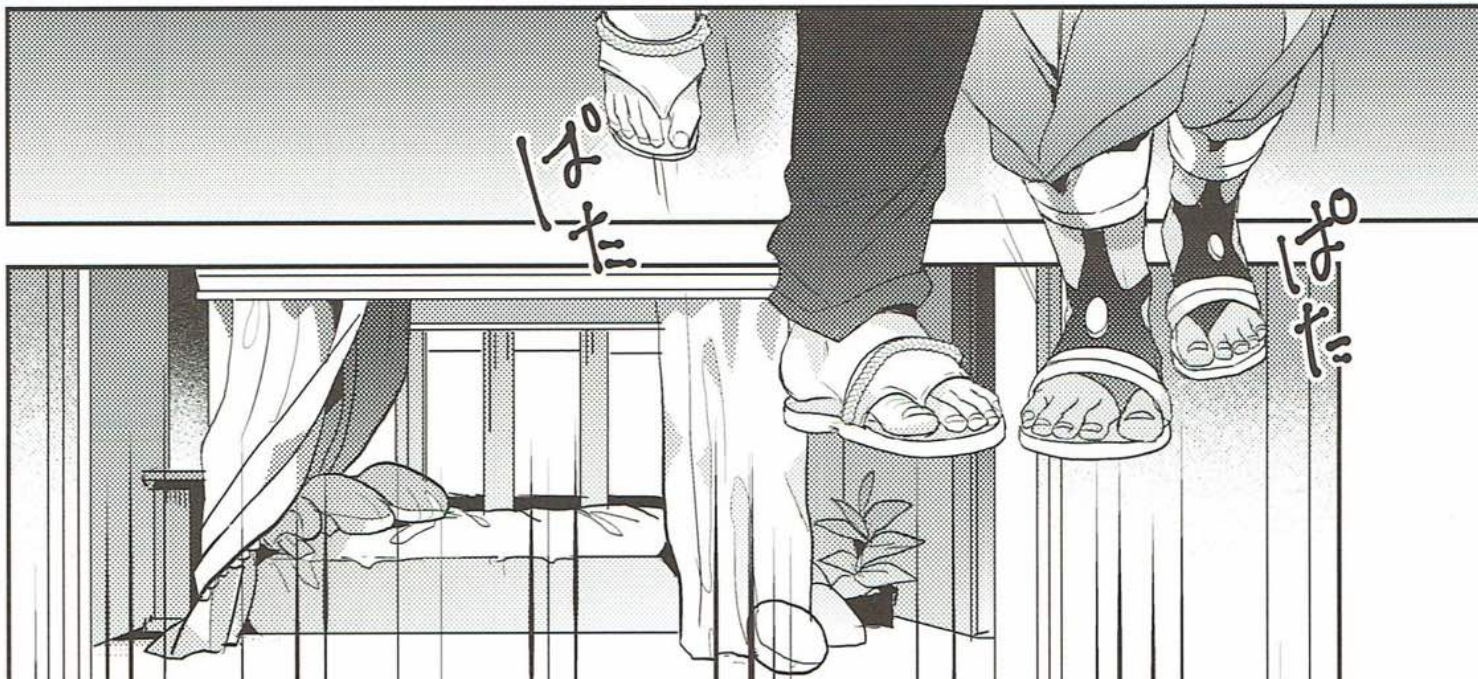
こうでなくては
言^かってやった
甲斐^{かい}が無い

んん…



そこまで
待^まてん

無論^{むろん}
余もだ



はた

はた



黄金の

うむ

ん

もどろ

む

あっ

寝台すら待てん
かつたくせに
前戯なぞ…っ

形だけなら
やめてしまえ…っ

んんん

んんん

ふ

ころ

歩き

辛い

んんん

んんん

んんん

んんん



待ちきれんのは
そなたではないか



フッフ



左様がつつく
様な真似は…

フッフ

し
ろ

分かった



そんなもの
自慰の一環よ



誰の所為
だと？

誰ぞやの所為で
随分と禁欲生活で
あった故…



しかも
知っておるぞ
魔術師のと
寝ておったらう
何が禁欲だ



ああ...っ

ふ...

ふむ...
では

これがなくて
さぞ辛かった様だ

たっぷり
味わえよ

ぐんぐん

ぐんぐん



与えたと
言いたいなら
最後までやれ

ん...
焦るな焦るな



これだ...
待ちかねた...

そう...これ...



黄金の
瞳を向ける

あなた
与えておる
のは余だぞ



欲求不満も
甚だしい

真面目に注げ…っ

貴様が
焦らすせいで



余が焦らした
覚えなぞ微塵も
無いのだが…



空腹こそ最高の
スパイスとはよく
言ったものよ…♡

まさかその為に
余を蔑ろに
しておったとは
言うまいな



ほっ…♡



美しき肉体を
愛でるのもまた

愉しみの一つ
なのだから



そういった側面が
無いとは言わ:
うっ…おい



止める
つもりか?

ひとまず
落ち着いたらう

体ぐらい
触らせろ



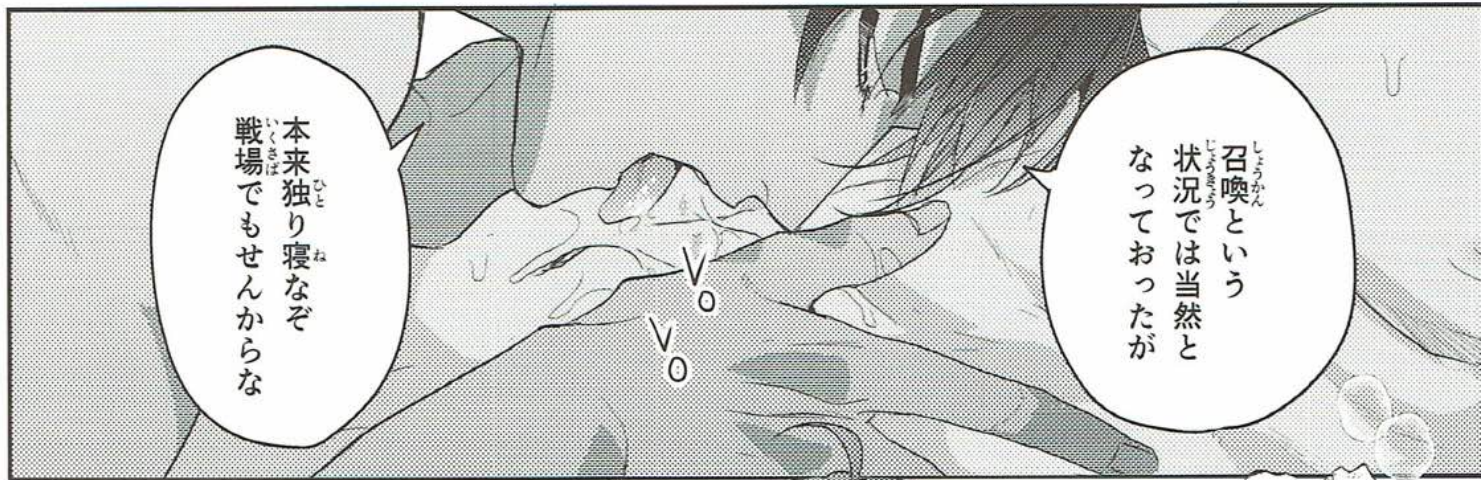
貴様も我が居らず
随分と寂しい思いを
しておったのだろう

触れたくて
仕方が無いと
いった様子だ



許す、続けよ!!

ふははははは！
成る程それは
憐れな事をした



召喚という
状況では当然と
なっておったが

本来独り寝など
戦場でもせんからな



慣れ親しんだ
共寝の習慣が
戻ったと思えば
急に奪われては

余とて
戸惑いもする

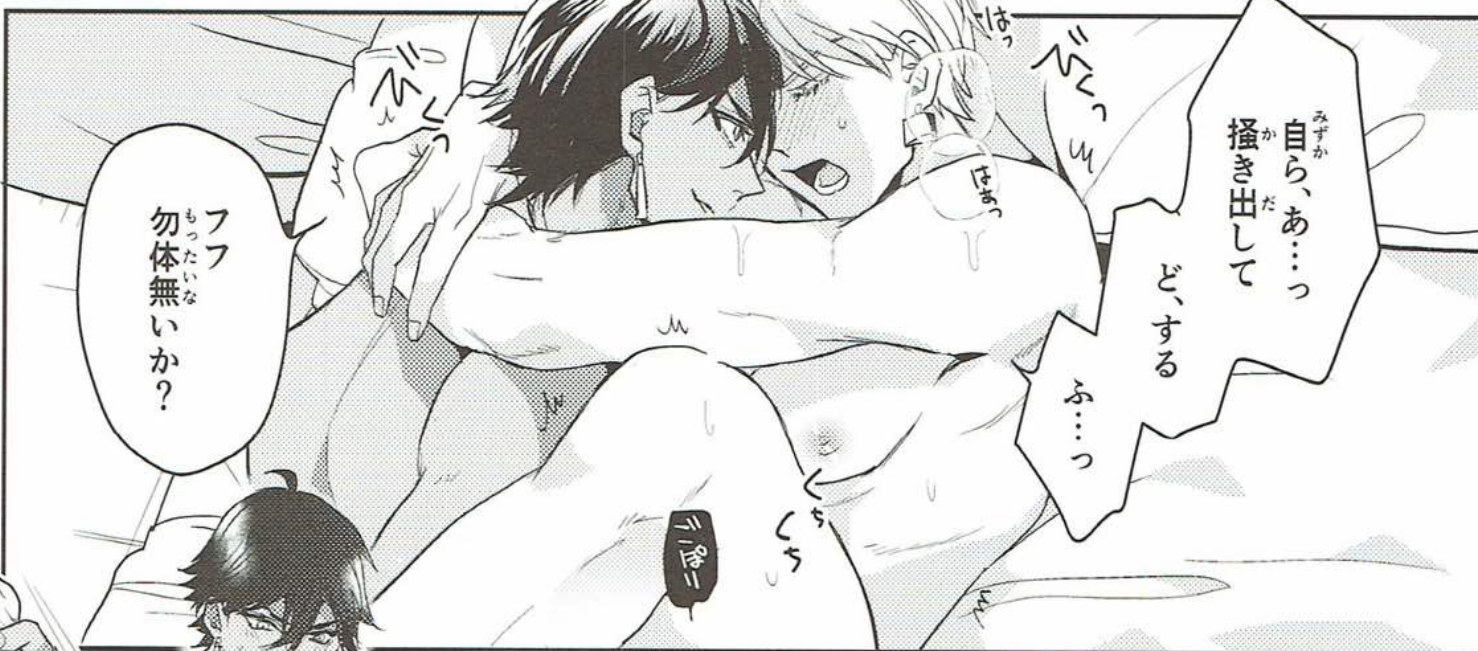




気分が、良い故
口煩く訂正は
せんでおいて、
はあ、…やろう

零すなど、
言った癖に

は…



自り、あ…っ
掻き出して

どする

ふ…っ

フフ
勿体無いか?



んっ…!?

心配には
及ばぬぞ

すぐにまた
満たしてやる

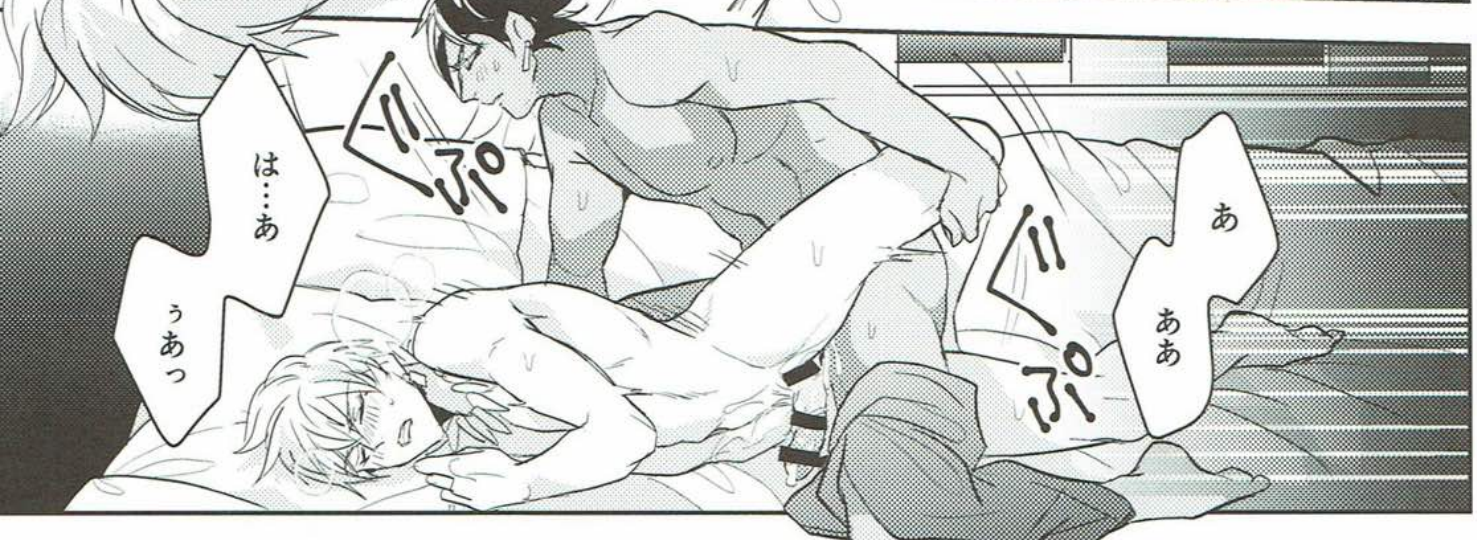
は…



せめてこの場には
悔いが残らぬよう
喰らってゆけ



一生を掛けたとして
余を堪能し尽くすには
至らぬであろうが…



は…あ
うあっ

あ
ああ



んっ

あっ

ちゅ
ちゅ



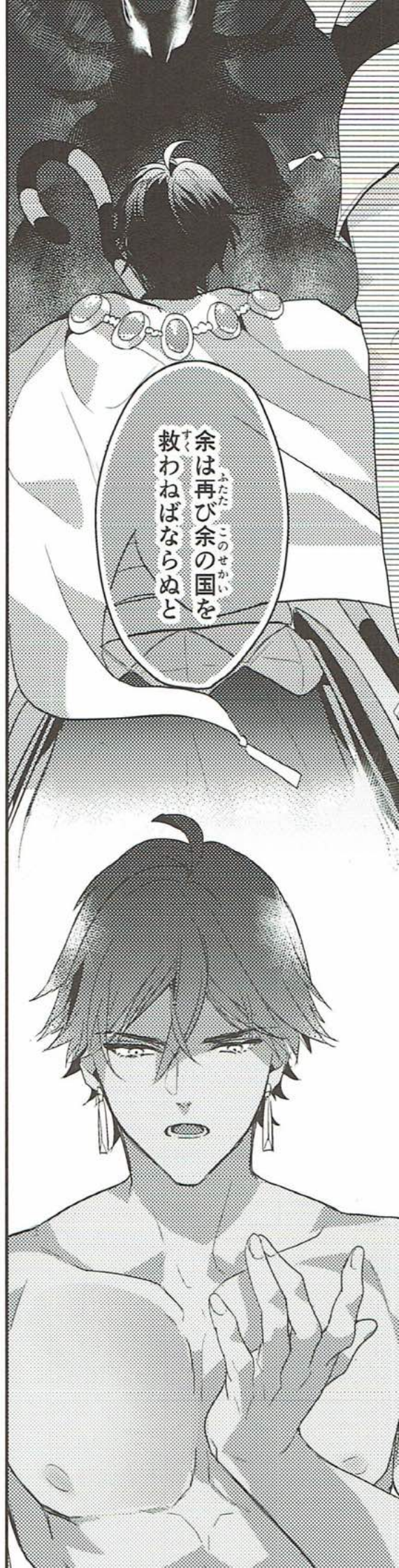




見えておるのは
それに関する
事柄であろう？

：興味はあるが
この場に於いては

太陽の光で他の光は
掻き消してくれる



余は再び余の国を
救わねばならぬと



ふん

天上には
隕石

傍らには太陽か



どちらを向いても
安眠できぬわ

これは独り寝に
戻った方が
快いのではないか



帰還自体は
せざるを...



とはいえ
否が応にも
そうはなる

そなたの見えるものが
真であれば「暫し」の間
となろうかな



心にもない事を



ん？

ふむふむ

ふむ...



.....



ここで還れば
腹上死ではないか？

ふあつははは
はははははは!!

その発想は
褒めてやる!!!

ふんふん!!



最後の一滴まで
そなたに注いで
からとしよう

供給の止まった
余の魔力

だが我が今宵を
満喫するまでは
還ってはいらん



ダ・ヴィンチによれば
次に召喚されるのも
「この余」であるぞ

せめて魔力だけでも
蔵に入る概念に
振り込めぬかな

しかし本に…
惜しい物よ…

名残惜しむのは
まだ先でよい



暫^{しば}しの別^{わか}れだ

ではな

ギルガメッシュ

オキ





かえ
還ったか…

とっつても
とっつても
再会しよう



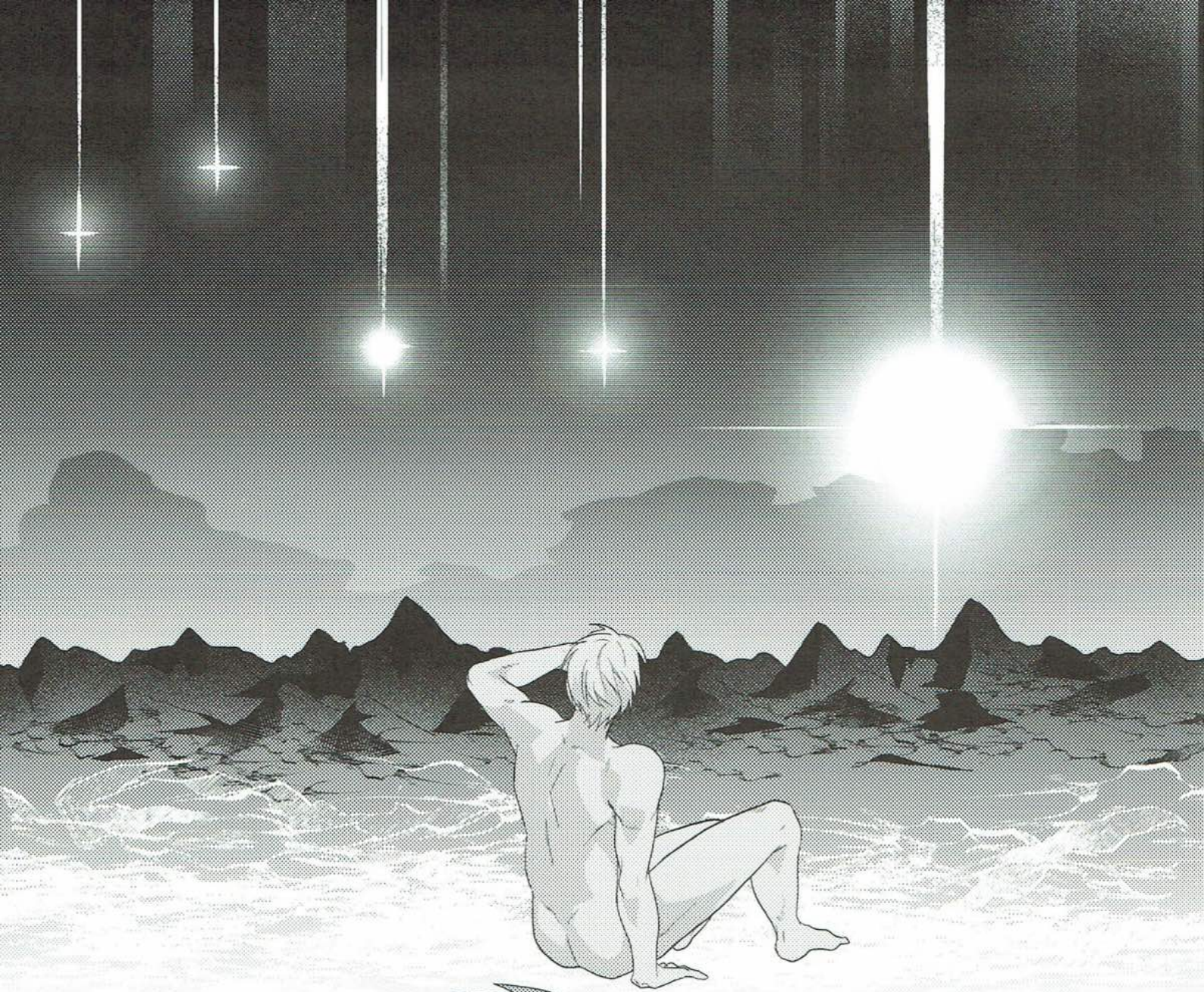
じんさい
人類も
たび
度々
めんどうごと
面倒事に
まきこ
巻き込まれるものよ

そっぴなくして
いかながな



チラチラ
チラチラと

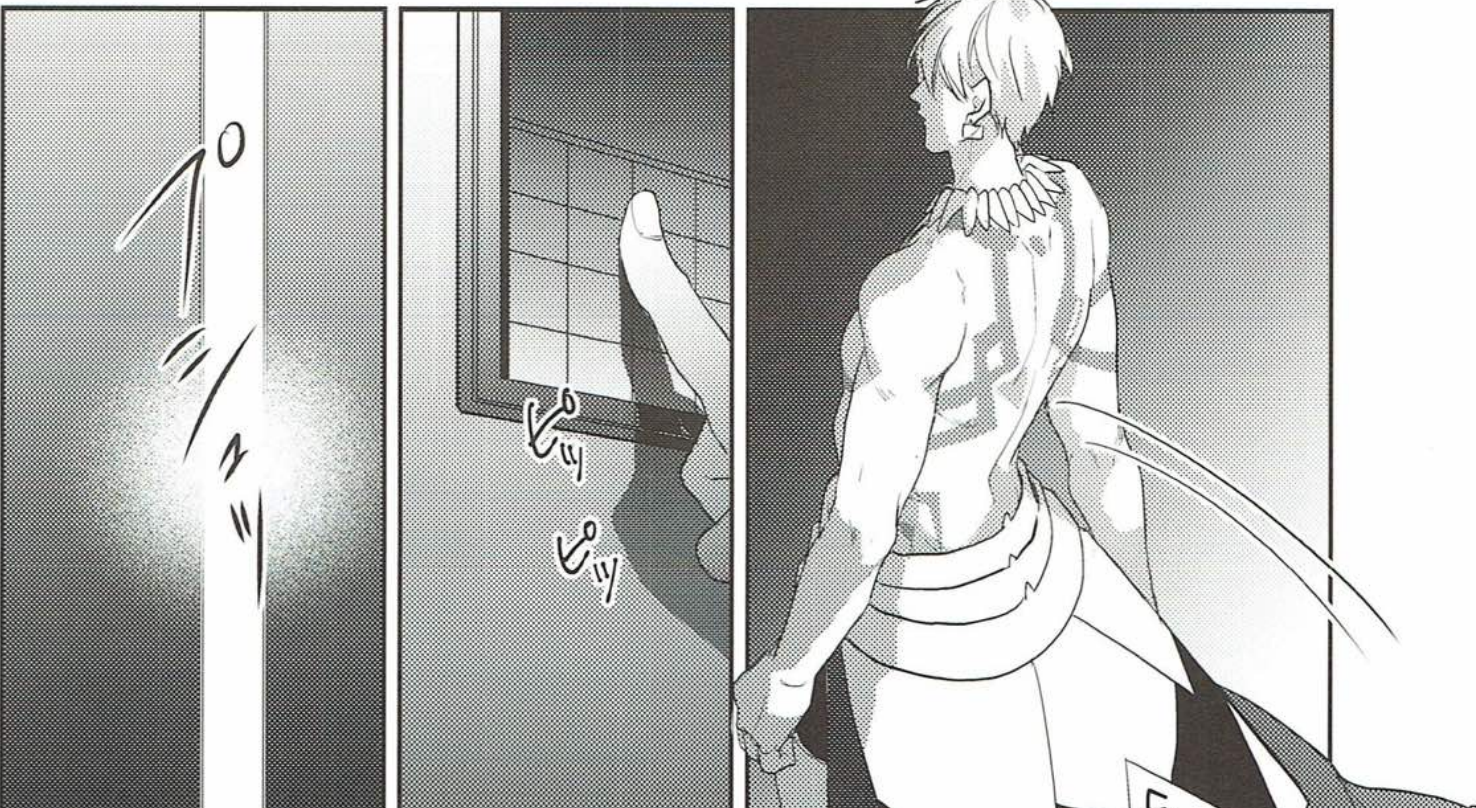
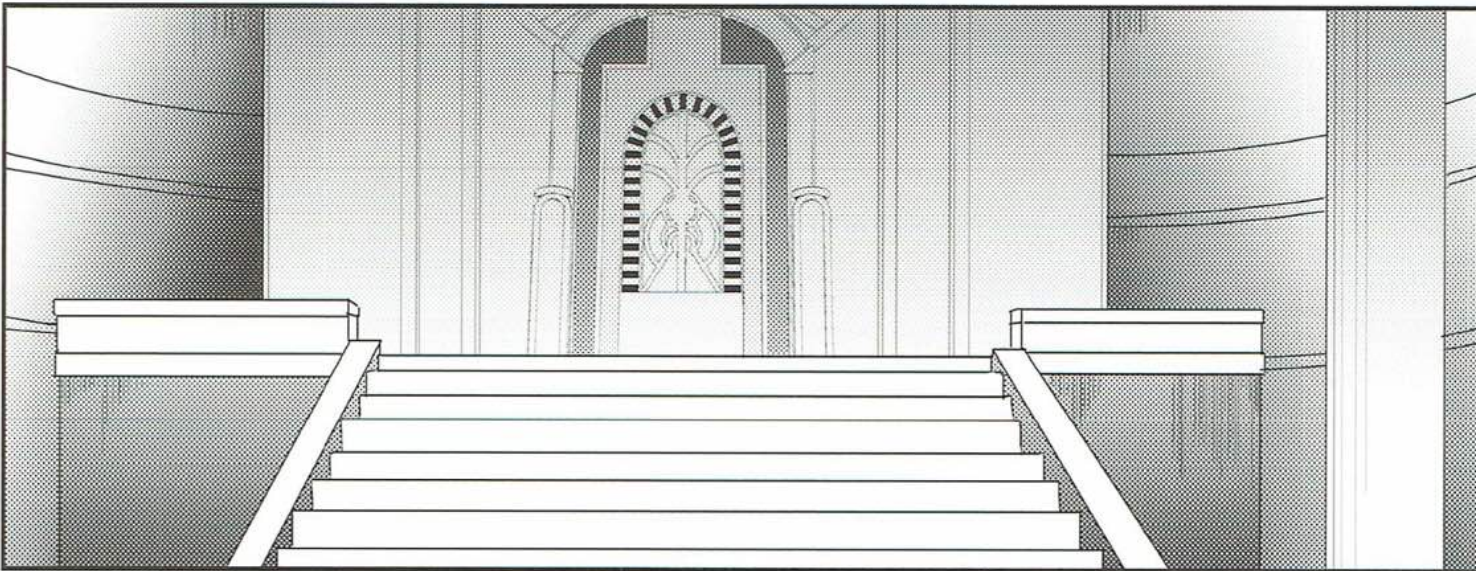
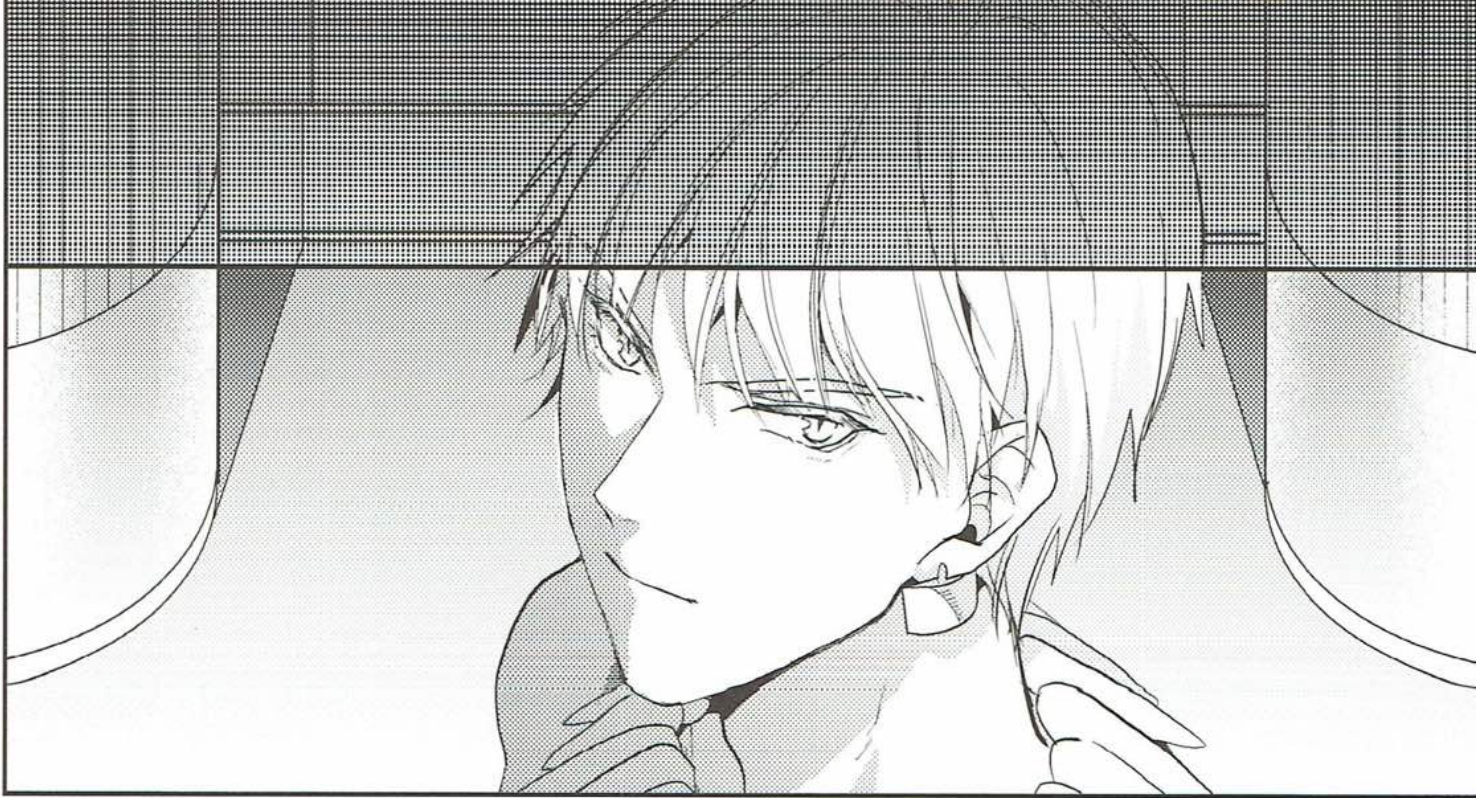
ふゆかい
不愉快な
光だ



いくらかマシだな



太陽の方が





王様

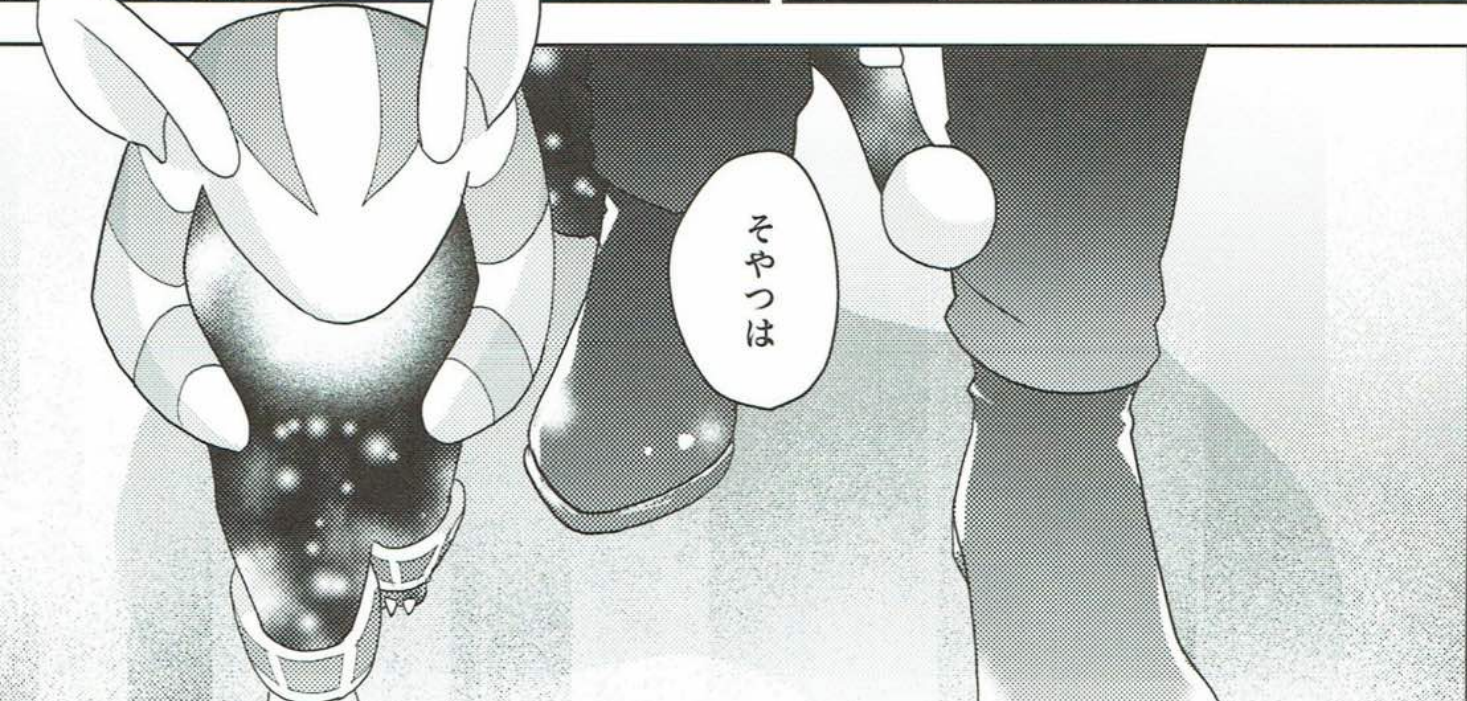


あーちゃんぽり
反力の反応
なくなっただけ
思ってたよりも
おにぎり
おにぎり
おにぎり

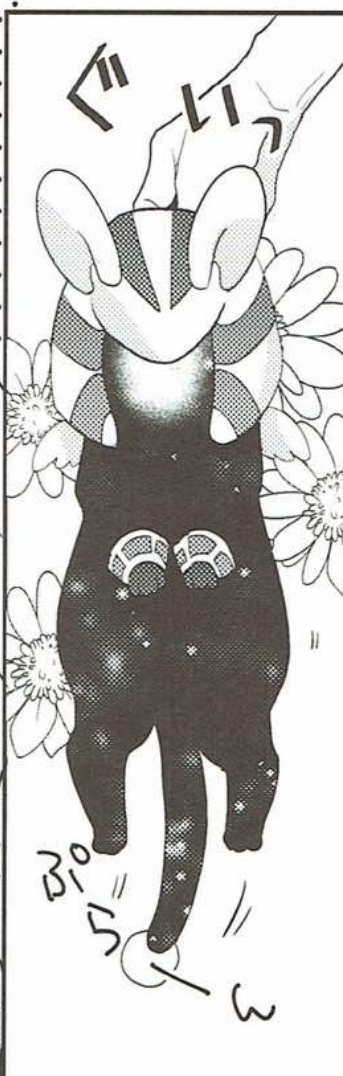


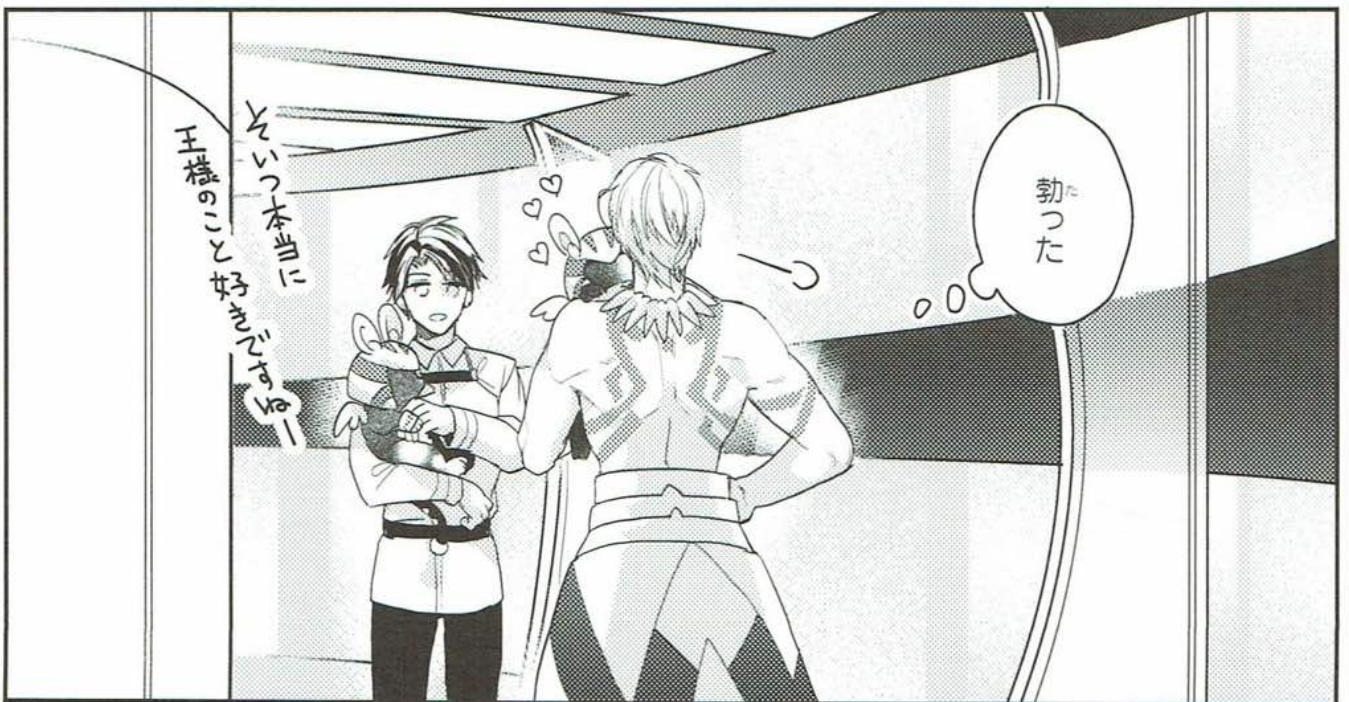
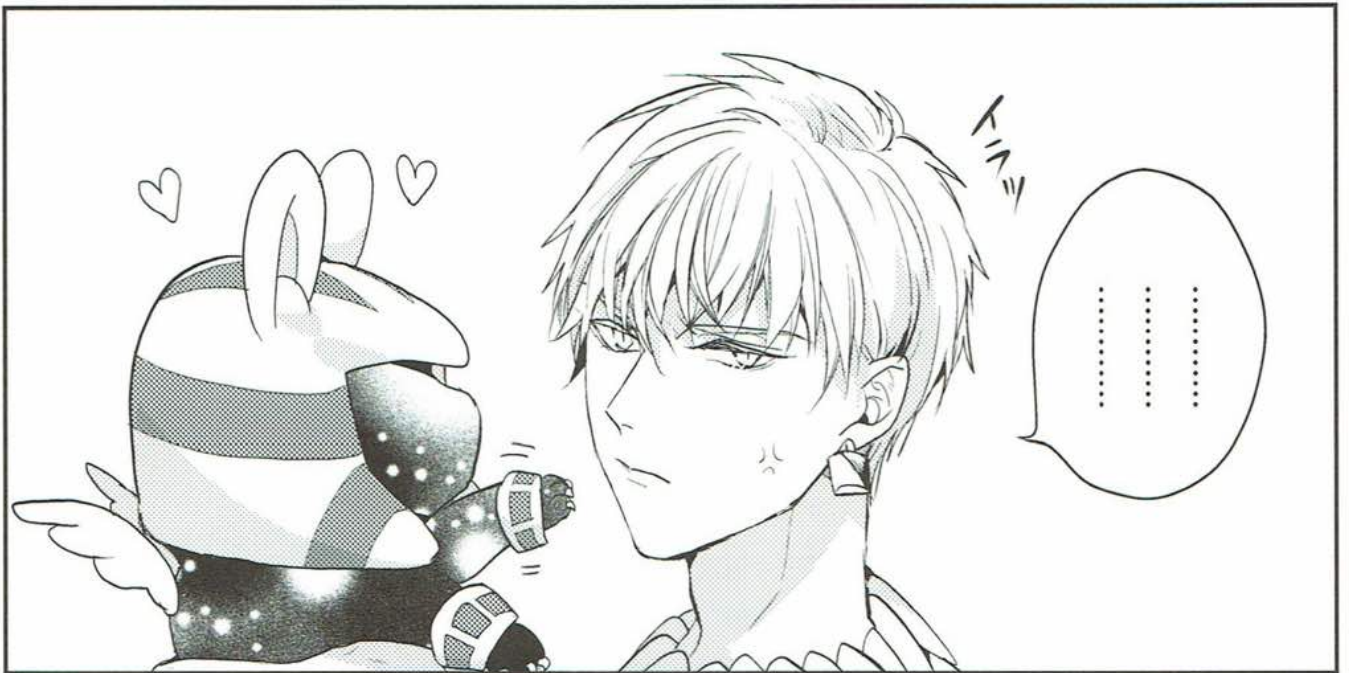
ファラオに挨拶に
来たんですが…

太陽のであれば
もう還ったぞ



そやつは





END

みんな退去してしまった…。つらみが深い…。と思っているうちに描いてしまいました。
でもダ・ヴィンチちゃんのトランクもあるし、二部もあるし、ちょっと待ってればまた会えますよね。

割と今回はギル様の受みたい言動が目立ってた気がするんですが、どれについても思い悩む感じではなく自覚して結局は自分の手の内の事という状態に持っていくように気をつけて描きました。一方オジマンの方ははっきり普段より振り回される側でした。珍しい。その代わり(?)王様系ムーブは沢山描いたつもりです。あとえっちに入ってしまうえば強いです。

オジマンがエジプト的死生観を持ちながら召喚によって自身の復活がない(ミイラが移動されてるから)事を知ってしまうのがすごく私の中で衝撃を受ける所なんですけど、それならそれでって他のことを考え始める所もまた好きです。この話題ストーリーに盛り込んでなくせに何で語り始めたって感じなんですけど、座に還るとある種の死を題目にしながら、そこに深く切り込まなくてもよかったという点に注目したいなと思って…。(切り込むなら切り込むでそういう話を避けはしないと思いますが)ギル様はギル様で死生観に思う所はあるものの、こちらはそもそも召喚の多さとか世界との関わり方とかで扱いが特殊なので単なる還る事への感慨は薄そうなの…どうだろう、難しい所ですね。その辺りの点でもこの二人似てる所も対極的な所もあったりして、まったくオジギルってやつは…。

もやもや考えはじめた所で、この本自体はすれ違いからのむらむらいちゃいちゃエロ本だったわと思い出しました。ギル様は相手より上の存在として君臨しているという絶対的な意識があるのでオジマンとの情事に夢中になってしまう事にプライドが障りそうな気がする。でも快楽を追い求め、より深く得る事を妥協しないだろうしそもそも自分が気に入って愛でてやっているという以上に夢中になるとは絶対に認めないと思う。不愉快な顔して触らせてやらないのもまた遊興の一つとしてしまうだろう。オジマンは(相手が自分とやる気が無いという事態に縁が無いとはいえ)やる気が無ければ無理に相手をさせたりしなさそうな気がする。でもここまでギル様と快楽に耽ってたのに急におあずけにされたら男として溜まって仕方ないでしょ。肉体はままならないわけだしね！という話でした。

今回は絡みこそ普段より控えめでしたが、独りでも相手の事を考えてるって所を描けて楽しかったです。本をお手に取ってくださってありがとうございます！楽しんで頂ければ幸いです！ ひつじ



コメントフォームに飛びます！
良かったら感想を頂けると励みになります！
<https://goo.gl/forms/bGeBQeE7usWJITW33>

「独り寝金の閨」

2018年1月28日 発行

印刷・製本 サングループ

酒蔵/ひつじ

anccococo@baa.daa.jp

pixiv : 137756

twitter : baa_baa_baa



我様はオナニーした事あるんだろうか…って思いつつ描きました。余様の方が更にした事なさそう…。目撃か後バシかの究極の二択感。



二人が待ちきれなくてまず一回戦をしてその後前戯を始める所が描きたくて、冬。(お腹に出た精液舐めやっつ描けた)



自然に術我様も肉体関係の輪の中に入ってる事を前提にしてしまうんです。これは余×弓本なので必要以上に絡ませないようにしてましたが。術様もかわいい…格好いい…。

転載・複写・オークション・フリマアプリへの出品は禁止しています。
返金には一切対応しておりません。

マテリアルで気が合うとか言っちゃうの何なんですかーもー！！
もー！！！！去年末に出たやつですが私年明けに入手したので今年もやってくれそうだなー！！！！公式ー！！！！ってなりました！！
率先が良い！！！！！！！！！！

